

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 2019年11月8日

【四半期会計期間】 第60期第2四半期(自 2019年7月1日 至 2019年9月30日)

【会社名】 昭栄薬品株式会社

【英訳名】 SHOEI YAKUHIN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 藤原 佐一郎

【本店の所在の場所】 大阪府大阪市中央区安土町一丁目5番1号

【電話番号】 06 - 6262 - 2707

【事務連絡者氏名】 取締役財務本部長 成瀬 幸次

【最寄りの連絡場所】 大阪府大阪市中央区安土町一丁目5番1号

【電話番号】 06 - 6262 - 2707

【事務連絡者氏名】 取締役財務本部長 成瀬 幸次

【縦覧に供する場所】 昭栄薬品株式会社東京支店  
(東京都中央区東日本橋一丁目1番5号ヒューリック東日本橋ビル)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第59期 第2四半期 連結累計期間	第60期 第2四半期 連結累計期間	第59期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年9月30日	自 2019年4月1日 至 2019年9月30日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	10,328,240	9,057,549	20,110,251
経常利益 (千円)	235,118	164,721	411,446
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	158,618	155,362	272,986
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	738,559	216,181	482,946
純資産額 (千円)	8,319,577	7,799,976	8,080,570
総資産額 (千円)	17,725,308	14,796,492	16,831,265
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	44.59	43.42	76.53
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	46.9	52.7	48.0
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	158,703	513,054	331,942
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	20,124	85,485	33,348
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	404,919	343,807	505,213
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	1,567,345	859,528	1,629,485

回次	第59期 第2四半期 連結会計期間	第60期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年7月1日 至 2018年9月30日	自 2019年7月1日 至 2019年9月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	22.69	34.80

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 当社は2018年12月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行いました。第59期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり四半期(当期)純利益を算定しております。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生はありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、重要な変更はありません。

### 2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益は底堅く、雇用情勢は改善し、景気は緩やかな回復基調で推移しました。一方、消費増税による消費の落ち込み懸念や米中貿易摩擦、英国のEU離脱問題等の影響で、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社グループの事業とかわりの深い界面活性剤業界におきましても、ここ数年堅調に推移していた生産・販売活動が前年と比べ、低調な推移となりました。

こうした中、当社グループとして化学品事業におけるオレオケミカルを中心とした既存得意先への拡販・拡充、新規取引先の開拓、国内外での新興化学品の販売拡大に取り組みましたが、低水準で推移する一部原材料価格（天然油脂相場価格）の影響や国内主要得意先からの受注減等の影響を受けることとなりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は9,057,549千円（前年同四半期比12.3%減）、営業利益は86,283千円（前年同四半期比42.1%減）、経常利益は164,721千円（前年同四半期比29.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、特別利益に投資有価証券売却益57百万円を計上したことで155,362千円（前年同四半期比2.1%減）となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、各セグメントの売上高は外部顧客への売上高を表示し、セグメント損益は四半期連結損益計算書における営業損益（営業利益又は営業損失）をベースとしております。また、各セグメントの営業損益のほかに、各セグメントに帰属しない全社費用82,897千円（前年同四半期比0.9%増）があります。

#### 化学品事業

化学品事業におきましては、国内主要得意先の生産・販売活動が低調となり、受注減となりました。また、一部原材料価格（天然油脂相場価格）の低水準で推移することで販売価格が伸び悩み、その他中国での環境規制に伴う一部取扱商品の供給不足等の問題も改善されませんでした。

この結果、化学品事業に係る当第2四半期連結累計期間の売上高は8,197,262千円（前年同四半期比12.0%減）、セグメント利益は132,335千円（前年同四半期比20.8%減）となりました。

#### 日用品事業

日用品事業におきましては、当社オリジナル商品のインターネット販売は順調に推移するものの、当事業が取扱う生活日用品などの個人消費は依然低迷しており、新規取引先の開拓や既存得意先への新アイテムの提案等拡販に努めましたが低調となりました。

この結果、日用品事業に係る当第2四半期連結累計期間の売上高は385,452千円（前年同四半期比9.5%減）、セグメント利益は48,409千円（前年同四半期比27.5%減）となりました。

#### 土木建設資材事業

土木建設資材事業におきましては、当事業の取扱商品とかわりの深い地盤改良工事、コンクリート補修補強工事の受注が二次販売店を中心に復調の兆しになりつつも、前年比較的規模の大きかった環境関連薬剤の納入が一旦落ち着き、環境改善工事の受注は低調となりました。

この結果、土木建設資材事業に係る当第2四半期連結累計期間の売上高は474,834千円（前年同四半期比19.3%減）、セグメント損失は11,563千円（前年同四半期は2,833千円のセグメント損失）となりました。

(2) 財政状態の状況

(総資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は14,796,492千円(前連結会計年度末比2,034,772千円の減少)となりました。主な要因は、現金及び預金が763,656千円、受取手形及び売掛金が677,144千円、保有有価証券の時価変動や一部売却により投資有価証券が610,025千円それぞれ減少したことによるものです。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債は6,996,516千円(前連結会計年度末比1,754,178千円の減少)となりました。主な要因は、支払手形及び買掛金が1,305,391千円、長期借入金が300,000千円、繰延税金負債が179,564千円それぞれ減少したことによるものです。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は7,799,976千円(前連結会計年度末比280,594千円の減少)となりました。主な要因は、利益剰余金が90,950千円増加したものの、保有有価証券の時価変動や一部売却によりその他有価証券評価差額金が379,993千円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ769,956千円減少し、859,528千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの主な要因は、次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は513,054千円(前年同四半期は158,703千円の獲得)となりました。主な要因は、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったことによる未決済分が当第2四半期連結累計期間に決済されたこと等により、売上債権の減少額685,986千円があった一方で、仕入債務の減少額1,307,325千円があったことによるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果獲得した資金は85,485千円(前年同四半期は20,124千円の使用)となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出27,061千円があった一方で、投資有価証券の売却による収入122,750千円があったことによるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は343,807千円(前年同四半期は404,919千円の使用)となりました。主な要因は、長期借入金の返済による支出300,000千円、配当金の支払額64,412千円があったことによるものです。

資本の財源及び資金の流動性に係る情報は、次のとおりであります。

主要な資金需要及び財源

当社グループの主要な資金需要は、原材料、販売費及び一般管理費、並びにシステム投資等の投資であります。

また今後、当社グループの収益の源泉として、事業間及び国内外間のシナジーを追及し売上高の増加を目指してまいります。

資金の流動性

突発的な資金需要に対して、迅速かつ確実に資金を調達できるよう、20億円の当座借越枠を取得しており、流動性リスクに備えております。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

(6) 従業員数

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの従業員数に著しい増減はありません。

(7) 生産、受注及び販売の実績

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの生産、受注及び販売の実績に著しい変動はありません。

(8) 主要な設備

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの主要な設備に著しい変動はありません。また、設備の新設、除却等の計画に著しい変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	11,610,000
計	11,610,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2019年11月8日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	3,579,105	3,579,105	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数100株
計	3,579,105	3,579,105		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年7月1日～ 2019年9月30日		3,579,105		248,169		167,145

(5) 【大株主の状況】

2019年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を 除く。)の 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
昭栄薬品社員持株会	大阪市中央区安土町1丁目5-1 船場昭栄ビル	478,685	13.38
鐵野 磨輝男	兵庫県伊丹市	395,205	11.04
大阪中小企業投資育成株式会社	大阪市北区中之島3丁目3番23号	307,500	8.59
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4-10	196,800	5.50
日本トラスティ・サービス信託 銀行株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-11	186,400	5.21
渡邊 健司	群馬県吾妻郡草津町	125,600	3.51
内野 佐斗司	大阪府吹田市	115,680	3.23
小林 節夫	東京都江戸川区	109,500	3.06
藤原 佐一郎	大阪府泉大津市	102,000	2.85
西巻 俊樹	兵庫県西宮市	90,075	2.52
計		2,107,445	58.89

(注) 発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合は、小数点以下第3位を四捨五入しております。

(6) 【議決権の状況】  
【発行済株式】

2019年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,576,500	35,765	
単元未満株式	普通株式 2,005		
発行済株式総数	3,579,105		
総株主の議決権		35,765	

(注) 単元未満株式には、当社所有の自己株式29株が含まれております。

【自己株式等】

2019年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数の 割合(%)
(自己保有株式) 昭栄薬品株式会社	大阪府大阪市中央区安土町 一丁目5番1号	600		600	0.02
計		600		600	0.02

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期累計期間において、役員の異動はありません。

## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,868,185	1,104,528
受取手形及び売掛金	6,423,477	5,746,332
商品	414,486	415,221
その他	76,280	80,235
貸倒引当金	222	198
流動資産合計	8,782,207	7,346,120
固定資産		
有形固定資産	193,869	213,687
無形固定資産	23,677	19,928
投資その他の資産		
投資有価証券	7,242,659	6,632,633
敷金及び保証金	328,146	330,019
その他	266,360	259,757
貸倒引当金	5,654	5,654
投資その他の資産合計	7,831,511	7,216,756
固定資産合計	8,049,057	7,450,372
資産合計	16,831,265	14,796,492

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,284,098	3,978,706
短期借入金	332,643	352,299
1年内返済予定の長期借入金	450,000	450,000
未払法人税等	63,154	67,020
賞与引当金	70,719	76,516
その他	83,456	82,002
流動負債合計	6,284,071	5,006,545
固定負債		
長期借入金	300,000	-
退職給付に係る負債	53,133	55,998
長期未払金	166,139	166,139
繰延税金負債	1,916,960	1,737,395
その他	30,389	30,437
固定負債合計	2,466,623	1,989,970
負債合計	8,750,694	6,996,516
純資産の部		
株主資本		
資本金	248,169	248,169
資本剰余金	173,568	173,568
利益剰余金	3,073,937	3,164,887
自己株式	711	711
株主資本合計	3,494,962	3,585,913
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,478,725	4,098,731
為替換算調整勘定	106,881	115,330
その他の包括利益累計額合計	4,585,607	4,214,062
純資産合計	8,080,570	7,799,976
負債純資産合計	16,831,265	14,796,492

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	10,328,240	9,057,549
売上原価	9,506,115	8,285,785
売上総利益	822,125	771,764
販売費及び一般管理費	673,101	685,480
営業利益	149,023	86,283
営業外収益		
受取利息	3,559	3,708
受取配当金	65,808	70,736
為替差益	13,049	-
不動産賃貸料	11,753	11,722
その他	2,400	4,197
営業外収益合計	96,571	90,363
営業外費用		
支払利息	6,118	3,797
為替差損	-	3,007
不動産賃貸原価	3,936	4,137
その他	422	983
営業外費用合計	10,476	11,926
経常利益	235,118	164,721
特別利益		
投資有価証券売却益	-	57,619
特別利益合計	-	57,619
税金等調整前四半期純利益	235,118	222,340
法人税、住民税及び事業税	82,343	73,654
法人税等調整額	5,843	6,676
法人税等合計	76,500	66,977
四半期純利益	158,618	155,362
親会社株主に帰属する四半期純利益	158,618	155,362

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
四半期純利益	158,618	155,362
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	597,119	379,993
為替換算調整勘定	17,178	8,448
その他の包括利益合計	579,941	371,544
四半期包括利益	738,559	216,181
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	738,559	216,181

## (3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	235,118	222,340
減価償却費	12,464	11,785
貸倒引当金の増減額(は減少)	56	24
受取利息及び受取配当金	69,368	74,444
支払利息	6,118	3,797
為替差損益(は益)	9,008	984
投資有価証券売却損益(は益)	-	57,619
賞与引当金の増減額(は減少)	8,740	5,797
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	3,491	2,864
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	161,228	-
長期未払金の増減額(は減少)	166,139	-
売上債権の増減額(は増加)	65,798	685,986
たな卸資産の増減額(は増加)	6,964	225
長期前払費用の増減額(は増加)	7,304	11,045
仕入債務の増減額(は減少)	64,763	1,307,325
未払消費税等の増減額(は減少)	8,608	7,023
その他	1,373	9,366
小計	183,802	510,977
利息及び配当金の受取額	68,097	73,096
利息の支払額	6,092	5,243
法人税等の支払額	87,103	69,930
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>158,703</b>	<b>513,054</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	4,611	27,061
投資有価証券の取得による支出	7,179	8,241
投資有価証券の売却による収入	-	122,750
保険積立金の積立による支出	8,908	8,124
保険積立金の解約による収入	-	6,023
その他	574	138
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>20,124</b>	<b>85,485</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	-	20,605
長期借入金の返済による支出	200,000	300,000
自己株式の取得による支出	141,695	-
配当金の支払額	63,224	64,412
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>404,919</b>	<b>343,807</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	9,394	1,419
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	256,945	769,956
現金及び現金同等物の期首残高	1,824,291	1,629,485
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,567,345	859,528

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日等をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の連結会計年度末日満期手形等が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
受取手形	78,374千円	-千円
電子記録債権	108,733千円	-千円
支払手形	82,111千円	-千円

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
給料及び手当	231,049千円	241,250千円
賞与引当金繰入額	76,211千円	76,516千円
退職給付費用	15,731千円	14,909千円
役員退職慰労引当金繰入額	4,910千円	-千円
貸倒引当金繰入額	56千円	24千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
現金及び預金勘定	1,800,445千円	1,104,528千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	233,100千円	245,000千円
現金及び現金同等物	1,567,345千円	859,528千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月26日 第58期定時株主総会	普通株式	63,224	53.00	2018年3月31日	2018年6月27日	利益剰余金

(注) 当社は、2018年12月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。上記の1株当たり配当額については、当該株式分割前の金額を記載しております。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

当社は、2018年7月20日開催の取締役会決議に基づき、自己株式41,000株の取得を行い、自己株式が141,450千円増加しました。また、2018年7月20日開催の取締役会決議に基づき、譲渡制限付株式報酬として自己株式36,000株の処分を行いました。この処分により、資本剰余金が2,453千円、自己株式が124,133千円それぞれ減少しました。

これらの結果、当第2四半期連結会計期間末において資本剰余金が173,908千円、自己株式が17,657千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 第59期定時株主総会	普通株式	64,412	18.00	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	化学品事業	日用品事業	土木建設資材 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,314,206	425,791	588,243	10,328,240	-	10,328,240
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3,372	-	-	3,372	3,372	-
計	9,317,578	425,791	588,243	10,331,612	3,372	10,328,240
セグメント利益又は損失( )	167,184	66,800	2,833	231,152	82,128	149,023

(注) 1. セグメント利益又は損失( )の調整額 82,128千円は、各報告セグメントに配分されていない全社費用 82,128千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	化学品事業	日用品事業	土木建設資材 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	8,197,262	385,452	474,834	9,057,549	-	9,057,549
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2,890	-	-	2,890	2,890	-
計	8,200,153	385,452	474,834	9,060,440	2,890	9,057,549
セグメント利益又は損失( )	132,335	48,409	11,563	169,181	82,897	86,283

(注) 1. セグメント利益又は損失( )の調整額 82,897千円は、各報告セグメントに配分されていない全社費用 82,897千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失( )は連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
1株当たり四半期純利益	44円59銭	43円42銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	158,618	155,362
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	158,618	155,362
普通株式の期中平均株式数(株)	3,556,885	3,578,476

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
2. 当社は、2018年12月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2019年11月8日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行および資本効率の向上を通じて株主利益の向上を図るため、自己株式の取得を行うものであります。

2. 取得の内容

- (1) 取得する株式の種類 当社普通株式  
(2) 取得し得る株式の総数 100,000株(上限)  
(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合 2.79%)  
(3) 株式の取得価額の総額 200,000,000円(上限)  
(4) 取得期間 2019年11月11日～2020年3月31日  
(5) 取得方法 東京証券取引所における市場買付け

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2019年11月8日

昭栄薬品株式会社  
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 森 内 茂 之

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 児 玉 秀 康

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている昭栄薬品株式会社の2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2019年7月1日から2019年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、昭栄薬品株式会社及び連結子会社の2019年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。